－所蔵作品紹介－

佐藤　進　SATŌ Susumu

館

やかた

作品データはこちら

佐藤進は士別市の生まれで、北海道旭川師範学校（現北海道教育大学旭川校）専攻科を卒業後、札幌で教員を勤めながら、繁野三郎を中心とした蒼玄会北海道支部と交流するなど、次第に水彩画に関心を持つようになった。戦後は旭川に亡くなるまで在住し、道展、一水会、日展などに出品、北海道を代表する水彩画家の一人として、活躍した。その作品は、風景画が中心で、独自の点描により、自然や風物の表情を豊かにとらえている。

この作品は、第12回改組日展で特選となったもので、旧日本陸軍の将校クラブだった「偕行社」（現在の旭川市彫刻美術館）を描いた作品である。彼は、一時的ブランクはあるものの、この建物を20年間にわたってさまざまな角度から描き続け、「館」の画家として、市民から親しまれた。前景の木立ちを通して、白壁の建物が静かなたたずまいを見せる。春から夏にかけて野外で描かれたこの作品には、長い時間の変化と自然への洞察が滲み出ている。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より